一般社団法人 福岡県言語聴覚士会

ニューズレター

NEWS LETTER　第79号 令和1年9月30日発行

事務局：麻生リハビリテーション大学校　灘吉 享子　〒812−0007 福岡市博多区東比恵3−2−1
TEL 080-1776-5108 FAX 092-436-6612　県士会HP：http://st-fukuoka.or.jp

Contents

P1　巻頭言
P2　歯科医師会イベント報告（北九州／福岡）
P3　災害リハ研修会案内
P4　全国研修会案内
　　訪問リハ研修会案内
P5　会長会議報告
　　北九州ブロック 講習会報告
P6　事務局からのお知らせ
　　議事録

巻　頭　言

地域包括ケア推進局　藤川　仁

最近、あおり運転の話題が度々取り上げられています。怒りの感情をうまく処理できないこともあおり運転の原因の一つではないかと思います。今回は、少し前に妻と一緒にアンガーマネジメントの研修に参加したことを思い出しましたので、少し書いてみたいと思います。

アンガーマネジメントとは「怒らないようになる」ことではなく怒る必要のあることは上手に怒る、怒る必要のないことは怒らないようになる、怒りで後悔しなくなること、とのことでした。研修では怒りの感情が生じるメカニズムについての話があり、そこから衝動のコントロール、思考のコントロール、行動のコントロールについてグループワークを交えて講義がありました。

怒りの感情とは第二次感情で、怒る前に第一次感情が存在するとのことです。例えば、連絡をせず帰りが遅くなった家族に対して「いま何時だと思ってるの！」と怒っている時、この怒りの第一次感情には一緒にご飯をたべたかった（寂しさ）、事故に遭ったのではないか（不安）、せっかくご飯をつくったのに（虚しさ）などがあったと考えることができます。相手の怒りの第一次感情に気付き、共感することで相手の怒りを落ち着かせることができることもあるとのことです。

次に、怒らせるものの正体は「こうすべき、こうあるべき」つまり自分の価値観にそぐわないことがあると怒りが発生するとのことです。相手は自分の思うように動いてくれなくて当然で、それぞれ違った価値観の元で行動していることを理解する必要があります。怒りっぽい人はこの「べき」がたくさんあり、相手が少しでもこの「べき」から外れた言動をすることが許容できないのかもしれません。許容できる範囲を広げる、不要な「べき」は捨てることが重要とのことです。

最後に上手な怒り方と悪い怒り方についての話がありました。感情をぶつける、機嫌で叱る、人格を否定する、これらは悪い怒り方です。上手な怒り方は自分の気持ち（第一次感情）+リクエスト（こうして欲しい）で伝えるのだそうです。人と関わる仕事である以上、怒りの感情を抱いたり、相手からぶつけられたりすることが多いと思いますので、怒りについて知ることはとても大切だと感じました。

ちなみに研修後しばらくは妻の怒る頻度が少なくなっていたのですが、今は…。今見ている研修の資料をテーブルの上に置いたままにしてみようかな。どんな研修も時間が経つと忘れてしまうので見返すことが大切ですよね。

デンタルフェア2019 in 北九州 参加報告

東筑病院　畑　聡一郎（北九州ブロック長）

令和元年6月2日、北九州歯科医師会主催の「デンタルフェア2019in北九州」に北九州ブロックの会員17名が参加致しました。毎年むし歯の日（6月4日）に因んで6月上旬に行われるこのイベントは、お口の健康から全身の健康へつなげることを目的に考えられており、小児から高齢者まで幅広い年齢層の方々とふれあいました。総来場者数は652名、多くの方々が来場されました。

言語聴覚士会からは「ことばと飲みこみの相談」（来訪者101名）、「舌圧測定」（来訪者149名）、そして市民参加型の催しとして聞こえた音を判別する「この音、何の音？」（来訪者35名）を担当させていただき、これらの催しを通じて、言語聴覚士の仕事を広報する良い機会となりました。また、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、管理栄養士の他職種の方と共にイベントを作っていくことは、昨今強く言われている他職種連携を感じることができるものです。このようなイベントに多くの言語聴覚士が参加することは有意義な時間であり、これからも活動を継続させたいと思っております。

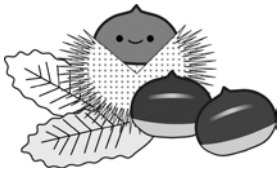
福岡市歯科医師会イベント報告

早良病院　隈部　美月

令和元年6月9日（日）、福岡市中央区赤坂にある福岡市歯科医師会館で、「第44回　福岡市民の健康を歯と口から守る集い」が開催されました。当会からは18名の会員が協力員として参加しました。催しでは「摂食嚥下相談」コーナーが設けられたほか、健口プランニングというテーマで、歯科衛生士会・栄養士会・食進会の他職種で連携した企画も行いました。具体的には健口予防に関するブースを巡りながら体験や測定、指導を行うものです。当会は測定ブースを担当し、BMI、握力、指輪っかテスト、オーラルディアドコキネシスの測定を実施しました。

イベントには老若男女さまざまな来場者が訪れ、当ブースには約200名もの方に訪れて頂きました。普段の病院や施設での支援とは異なり、幅広い年代の来場者の皆様と一緒にイベントを楽しみながら健口啓発活動を行えたことは、参加した自身にとっても有意義であったと感じます。また、市民の皆様が言語聴覚士や言語聴覚障害についての知る機会となることや自分の健康について考えるきっかけになればと思います。

災害リハビリテーション研修会



県士会では下記の要項で災害リハビリテーション研修会を開催いたします。今回は、国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科の原田浩美先生をお招きして、災害時に私たちのできることについてお話をして頂きます。先生のこれまでの体験をお聞きし、災害について考える機会になればと思っております。経験の全くない方、ある方問いません。ぜひ、一緒に災害について考えてみましょう！！

参加希望の方はＱＲコードもしくは県士会のホームページからお申込みください。多くの方の参加をお待ちしております。

「災害時におけるSTの関わり（仮）」

講師：国際医療福祉大学　成田保健医療学部　言語聴覚学科
原田　浩美　先生

日時：令和元年10月27日（日）　10時～13時

会場：麻生リハビリテーション大学校　7階

【参加費】県士会会員：1000円　県外県士会会員：2000円　非会員：5000円
※当日の受付時に県士会会員証の提示がないと「非会員料金」となります。
この研修会は日本言語聴覚士協会障害学習プログラムポイント取得対象研修会です。日本言語聴覚士協会や福岡県言語聴覚士会への入会がお済でない方は、研修会当日までに入会申請を行ってください。

※当日、台風等の災害や交通機関の停止等により中止になる場合は、県士会HPにてご案内しますので、HPをご確認ください。

【申し込み】申し込み締め切り：10月21日（月）

【問い合わせ先】
戸畑共立病院　大森　政美
URL:https://ssl.form-mailer.jp/fms/c4946665636812
E-mail：masamiomorist-tobata@yahoo.co.jp
当日問い合わせ先（事務局）：080-1776-5108

QRコード

2019年度　第3回全国研修会のお知らせ

今年度も全国研修会（専門講座）が福岡で開催されます。ふるってご参加ください。

【開 催 日】 福岡会場：2019年11月24日（日）

【受 講 料】 ＜専門講座（１講座）＞
正会員(※１)：1講座2,000円　　準会員・学生会員(※1)：1講座1,500円　　会員外：1講座4,000円
（※１）承認待ちは会員と同額　※会員、準会員を優先受付し、定員になり次第終了とします。

【申込期間】 2019年10月2日(水)13時から　2019年11月12日(火)13時まで

【申込方法】 お申込は日本言語聴覚士協会ホームページ　https://www.japanslht.or.jp/
マイページ内、研修会・講習会：申込フォームより/FAX:03-6280-7629

【プログラム】 ＜福岡会場＞　専門学校　麻生リハビリテーション大学校8階講堂（定員195名）

9:30	開場、受付開始
10:00～12:00	専門講座①　生物コミュニケーションー学際的な視点からー《講義概要》 講師：畿央大学　森岡　周　先生
12:30	受付開始
13:00～15:00	専門講座②　在宅における摂食嚥下リハビリテーション《講義概要》 講師：医療法人社団永生会　山本　徹　先生

【問 合 せ】 日本言語聴覚士協会の事務局か福岡会場担当者まで問い合わせください。
日本言語聴覚士協会　事務局：協会ホームページより確認できます。
福岡会場担当者：大内田博文（国際医療福祉大学　福岡保健医療学部）
TEL：0944-89-2000　　E-Mail：h-ouchida@iuhw.ac.jp

●当日は「会員証」「受講記録票」を忘れずにお持ち下さい。
※受講記録票は研修会会場でも現金にて購入いただけます。
なお、講座開始後15分以降に受付の場合はポイント取得できません。ご注意下さい。
●期限までの受講料納入が確認できない場合は受講できません。また現金による当日入金受付はお受けしておりません。
●受講料の振込確認をする場合がございますので、振込の証明となるものをお持ち下さい。

2019年度「福岡県訪問リハビリテーション実務者研修会」のお知らせ

2019年度「福岡県訪問リハビリテーション実務者研修会」が2019年12月14日㈯～15日㈰、北九州市戸畑区のウェルとばたで開催されます。14日のテーマは「住民主体の自立支援」、15日のテーマは「リスク管理+ACP(アドバンスケアプランニング」となっています。地域包括ケアシステムの要となる、住民による自立支援。リハスタッフに必須な、リスク管理と広い視野を必要とするアドバンス・ケア・プランニング(ACP)です。特に嚥下に関わるSTは急性期・生活期に関わらずACPの知識は必要だと感じています。

10月の上旬にHPで詳しいプログラムの掲載と受講募集開始の予定です。

日時：2019年12月14日(土)～15日(日)　　会場：ウェルとばた（北九州市戸畑区）

プログラム（予定）

１日目
テーマ「住民主体の自立支援」
・住民主体による自立支援のすすめ
・グループワーク

２日目
テーマ「リスク管理+ACP（アドバンスケアプランニング）」
・在宅におけるフィジカルアセスメントとリスク管理
・人生会議（アドバンスケアプランニング）をやってみよう
・自分の死生観について考える

※アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは
自らが希望する医療・ケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有すること。自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取り組み。

参考：厚生労働省＜https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/saisyu_iryou/index.html＞

令和元年度 春期都道府県士会会長会議 報告

会長　佐藤　文保

令和元年6月27日、大分で開催されました第20回日本言語聴覚学会の前日に、令和元年度春期都道府県士会会長会議が開催されました。冒頭の会長挨拶では、自民党難聴対策推進議員連盟に出席されたことについての報告があり、難聴児・者への対応が進んでいない現状について述べられました。特に難聴児の対応については、対象者が年々増加傾向にあるにも関わらず、難聴に関わるSTの数が少なく、難聴児を受け入れられる施設が限定されることや、特殊支援学校等にSTが配置されていないことへの指摘があったそうです。STにおける難聴児・者への対応はまだまだ進んでいないのが現状で、今後協会としても対策が必要とのことでした。各部局からの報告は以下の通りです。

国際部

今後の展望を考え、非日本語話者を受け入れられる施設のリスト化を進めていくとのことで、会員への調査協力依頼がありました。

医療保険部

内部障害（循環器や呼吸器疾患など）患者に対する言語聴覚療法の実施について、3協議会から9団体医療報酬対策委員会へ要望書を提出されたそうです。また、小児領域における総合実施計画書の作成が行われていない現況についても報告があり、現在、医療と介護両方で活用できる計画書の検討が行われているそうです。

介護保険部

地域リハビリテーション活動支援事例の集計について報告がありました。昨年度の活動については、13士会から、地域ケア会議への助言者の派遣・調整が25例、介護予防事業への講師の派遣・調整が25例の報告があったとのことです。

障害福祉部

今年度、障害福祉実態調査が行われます。対象は関係施設に勤務する言語聴覚士で、調査内容としては、発達支援事業所におけるSTの勤務状況や勤務内容、勤務環境等についての調査が行われるそうです。

生涯学習部

平成30年度までの認定言語聴覚士の取得状況累計の報告がありました、福岡県では、摂食19名、失語11名、成人発声発語1名、言語発達3名、聴覚4名、計38名の方が取得されていました。ちなみに一番取得状況が多い都道府県は東京都で64名でした。

失語症者向け意思疎通支援者養成事業について

事業についての調査報告があり、今年度までに養成研修会を既に開催した県は12県、今年度から開催を予定している県が11県でした。また派遣については、今年度開始予定の県が5県、来年度から開始予定の県が9県とのことでした。派遣については、「失語症者向け意思疎通支援者の効果的な派遣実施に向けた調査研究」が開始され、派遣実施に向けての課題を整理し、地域の資源活用を含めた派遣方法の検討が行われます。

最後に各士会からそれぞれの活動について報告がありました。東京都士会においては、協会からの補助金を活用して子供にSTの仕事をアピールするイベント（内容は会報HPで紹介）を開催されたそうです。富山県士会においては、研修会をポイント制にし、ポイントが貯まると研修会が一回無料になるという特典を設けて、会員の活動への参加を促されているとのことでした。また京都府士会では認知症プランにおける支援にSTが関わり、認知症委員会に参加したり、事例集も作成されているそうです。それぞれの士会が課題を抱えながらもさまざまな活動を行なっておられ、組織を活性化していくための各士会の工夫を感じました。

北九州ブロック　夏の講習会開催報告

東筑病院　畑　聡一郎（北九州ブロック長）

夏休み最後の日曜日である8月25日、北九州市立医療センターを会場に柳川リハビリテーション学院副学科長 深水峰子先生をお招きし、北九州ブロックの夏の講習会を行いました。講義の内容は、小児から成人まで使える統語・構文に関するご講義をいただきました。深水先生は、第6回言語聴覚研究最優秀論文賞を受賞されており、午前中の講習会ではありましたが多くの方に参加いただき、深水先生のお話を拝聴し非常に有意義な講習会を行うことができました。講習会の後には懇親会の場も設けて、言語聴覚士の育成にも携わられている深水先生と様々な交流を持つことができました。

言語聴覚士として第一線で活躍されている先生と講義やその他の場面で触れ合うことができる、このような職能活動が「ブロック」の役割を有意義に果たせることにつながるのではないかと感じています。これからも積極的に講習会やイベントを行い、多くの言語聴覚士の集いができる「ブロック」活動にしていきたいと思います。

最後になりましたが、遠方よりお越しくださいました深水先生に謝意を申し上げます。

事務局よりお願い

①会費の振り込みの際は、必ず**会員番号を記入**して下さい。
尚、会費納入につきましては、なるべく自動引き落としにしていただくようお願い致します。
「自動払込利用申込書」にご記入捺印の上、事務局に提出してください。
※振替受領書や領収書は1年間大切に保管されますようお願い致します。

○**お問い合わせ先（事務局）**
灘吉　享子（麻生リハビリテーション大学校）
（携帯）080-1776-5108（FAX）092-436-6612

②**改姓や住所変更、郵便送付先（勤務先・自宅）変更等があった　場合は、速やかに変更届を下記に提出を御願い致します。**
届出用紙は県士会ホームページからもダウンロードできます。

○**会員情報担当：麻生リハビリテーション大学校　福島 志津**
（TEL）092-436-6656　（FAX）092-436-6612
（E-Mail）s-fukush@asojuku.ac.jp

③**会員証をご確認下さい。**

【ゆうちょ銀行からのお振込み】
振 込 先：郵便局
記　　号：１７４１０
番　　号：８１２７１８３１

【ゆうちょ銀行以外からのお振込み】
銀 行 名：ゆうちょ銀行
金融機関コード：９９００
店　　番：７４８
預金種目：普通
店　　名：七四八（ナナヨンハチ）
普通口座：８１２７１８３
口座名義：シャ）フクオカケンゲンゴチョウカクシカイ

★研修会等の受付の際、会員証の提示がない場合、**非会員料金**になります。
★会員証は、**今年度分まで会費納入済**の方にお配りしています。
★**本年度**の会員証をお持ちでない方はメールかFAXでお問い合わせ下さい。

メール　fukuoka_st_730@yahoo.co.jp
FAX　092-436-6612

第2回理事会 2019年6月22日（土）

場所：麻生リハビリテーション大学校
出席：佐藤、佐々木、原田、灘吉、松尾、福島、難波、井上、大内田、山口、椛、吉永、大森、久池井、松井、児玉、藤川、永江、古澤、齋藤、酒井
欠席：山田洋、横井、永松、冨永、山田宏、荒木
＜報告＞
会員数：638名　（正会員：628名　　賛助会員：10名）
入会：7名（再入会1名）　　退会：2名　　変更：3名
＜議題＞
①失語症者向け意思疎通支援者派遣の調査について（佐藤）
　支援者養成はある程度進んでいるが、派遣には繋がっていない
　厚労省と協会とで、派遣の状況調査を行っていく
②作業療法協会九州学会報告（佐藤）
　6月22日　佐藤出席
③失語症者向け意思疎通支援者養成講座選択科目実習について（佐藤）
　昨年度は協力団体の活動に参加→目的の実習が行えていない現状
　委員+協力者で外出同行支援実習を行う方針
④介護予防事業実績について（佐藤）
　協会への実績報告必要
　担当者に記入フォームなどを送る
⑤失語症者向け意思疎通支援者養成研修について（佐々木）
　昨年度の余剰分で機器類を購入
　パソコンは委員会で管理　その他は事務局で管理
　指導者研修　10月26 ～ 27日　金井ST、理事より1名参加予定
⑥協会代議員出席報告（原田）
　次年度より代議員を減らしていく方針
⑦九大言語運用研の研修会について（原田）
　2 ～ 3月頃に小児対象のセミナー開催
　テーマや講師の希望を小児サポート委員会で集約する
⑧非日本語話者対応可能なST・施設について（原田）
　協会の国際部でリストを作成していく
　九大 山口STがとりまとめ
⑨福岡市歯科医師会イベント報告（社会局）
　6月7日開催
　フレイル測定…oral diadochokinesis、RSST、指輪っかテスト、
　　握力測定（50代以上）　来訪者228名
　摂食嚥下障害相談…来訪者18名
⑩北九州歯科医師会イベント報告（社会局）
　6月2日開催
　ことばと飲み込みの相談…来訪者101名
　舌圧測定…来訪者149名
　音の判別…来訪者35名
　同日に京都郡でもイベント開催「歯と口の健康フェア」来訪者63名
⑪災害対策委員会（社会局）
　6月10日　　第2回委員会
　10月27日　災害リハ研修会開催予定（麻生リハ）
　　講師：原田浩美先生（協会の災害対策部）に依頼予定
　北九州DMOCへ参加（大森・中川）
⑫九州学会準備報告（学術局）
　大会テーマ案は夏までに決定
　成人：失語症支援（市民公開講座など）
　小児：特別支援の取り組み
　北九州市の共催を申請する
　会場からの見積もりは80万円程度
⑬ちいサポ委員会報告（地域包括ケア局）
　6月18日開催
　助言内容をデータ化するため雛形作成中
　アドバイザーのサポートとして情報交換会を計画（2月29日予定）
　新規のアドバイザー対象に見学などができるようにしていきたい
　介護保険領域のST情報を収集していく
⑭福岡県訪問リハ実務者研修会（地域包括ケア局）
　12月14 ～ 15日　ウェル戸畑
⑮DVD研修（Aコース）開催について（地域包括ケア局）
　2020年2月2日　B・Cコース開催を検討
　各地区で開催したほうが人数集まりやすい
　Aコースを8月頃に開催するか
⑯柏屋町からの介護予防事業依頼（事務局）
　青洲会病院のSTに直接依頼あったが、県士会会員ではなかった
　　→青洲会の別のSTを派遣

第3回理事会 2019年7月28日（土）

場所：麻生リハビリテーション大学校
出席：佐々木、原田、灘吉、松尾、福島、難波、井上、山田洋、大内田、横井、山口、椛、久池井、永松、松井、児玉、冨永、藤川、山田宏、永江、古澤、齋藤、荒木
欠席：佐藤、吉永、大森、酒井
＜報告＞
会員数：652名　（正会員：642名　　賛助会員：10名）
入会：22名　　退会：0名　　変更：6名
＜議題＞
①三士会連絡協議会（佐々木）
　7月22日（月）　佐藤・佐々木・原田・灘吉・吉永・藤川・大内田
　確保基金研修会・訪問リハ研修会・災害対策について検討
②失語症者向け支援者派遣についての調査（佐々木）
　今後、検討委員会を立ち上げ
③第1回リハビリテーション研修会（佐々木）
　10月　ナースプラザにて開催
④失語症者向け支援者養成事業について（佐々木）
　HP上に学会での報告内容や受講者向けニューズレターなど掲載
　委員だけでは人手不足→活動内容を周知して協力員を増やす
⑤シーズ－ニーズマッチング参加者について（佐々木）
　国際会議場
　2020年1月14日　佐々木+1名　11：00 ～ 17：00
　　15日　佐藤・原田　10：00 ～ 16：00
⑥確保基金介護予防指導者養成事業について（佐々木）
　シンポジスト　多々良リハor早良で検討中
⑦大分学会について（原田）
　失語症サポート委員会より演題発表
⑧代議員について（原田）
　5月25日　原田・吉永・浅田・占部出席
　定款変更　代議員定数1人／ 200人　→　1人／ 300人
　永年会員を新設…65歳以上、20年以上の会員が対象（会費¥1,000）
　第21回学会　2020年6月19 ～ 20日（筑波大）
　第22回学会　2021年6月（愛知）
　協会との一本化については今後検討
⑨言語聴覚フェスタについて（社会局）
　9月7日開催
　協力員募集（40名程度）
⑩北九州DMOC参加報告（社会局）
　7月20日　中川ST・大森参加
　災害当日から1週間後の避難所を想定しての研修
　今後マニュアルなど作成
⑪失語症者向け支援者養成講座について（学術局）
　今年度の講義は終了（受講者15名）
　今後、実習開催予定
⑫訪問リハ研修会進捗状況（地域包括ケア推進局）
　北九州市の共催なし
　予算52万円程度の概算
　研修の意義について今後検討
⑬入会届等申請方法変更について（事務局）
　メールで届け出ができるように変更
　現時点ではPCからしか入力できない→今後スマートフォンでの対応を検討
⑭PT災害研修について（事務局）
　灘吉参加
　災害時に協力できる人のメーリングリストを作成検討
　将来的にはP・O・S協同で動けるようにしていきたい
⑮秋の講演会について（職能局）
　12月8日（日）開催
　会場は九州芸文館で検討中（予約は3ヶ月前から）
　講師宛てに公文書を送付
　謝礼¥25,000　宿泊費などは未定
　会場で講師の著書を販売（著者割引あり）
　講師から撮影依頼あり→受講者の了承を得る
⑯失語症支援者養成指導者向け研修について（学術局）
　椛とサポート委員から1名参加予定
⑰日本在宅地域フォーラムについて（地域包括ケア局）
　後援・単位認定・実行委員への参加・ワークショップなどの依頼あり
　内容などは未定の部分が多い
　後援は良いのではないか
　2020年10月開催予定

第4回理事会 2019年8月17日（土）

場所：麻生リハビリテーション大学校
出席：佐藤、原田、灘吉、松尾、福島、難波、井上、山田洋、横井、大森、久池井、松井、冨永、永江、古澤、齋藤、酒井
欠席：佐々木、大内田、山口、椛、吉永、永松、児玉、藤川、山田宏、荒木
＜報告＞
会員数：664名　（正会員：654名　　賛助会員：10名）
入会：8名　　退会：1名　　変更：2名
＜議題＞
①会長会議報告（佐藤）
　難聴児者への対応が遅れている→協会としても対策を検討
　非日本語話者に対応できる施設をリスト化する方針（九州は九大STが担当）
　心リハ・呼吸器リハへのST参入について検討
　認定STの位置付けをもっと明確にしてほしい
②福岡県介護予防市町村支援委員会報告（佐藤）
　8月31日　登録リハ専門職向け研修
　テーマ：通いの場に対する支援について
　介護予防に関われるSTの育成が必要
③佐賀県士会20周年記念式典報告（佐藤）
　7月28日（日）　佐藤出席
　祝賀会参加者　40名程度
④失語症者向け支援者湯お政指導者研修について（佐藤）
　椛、金井STが参加予定
⑤JIMTEF災害医療研修ついて（佐藤）
　ベーシックコース　9月21 ～ 22日　中川ST（戸畑リハ）が参加
　アドバンスコース　今年度は参加なし
　次年度はベーシック1名、アドバンス1名の予定
⑥イベント保険について（佐藤）
　協会より、失語症支援者養成事業などに保険をかけたほうが良いとの要請あり
　今年は社協の保険を利用する方向で検討中
　昨年は個人でボランティア保険に入ってもらっている
⑦確保基金に関する事業について（佐々木）
　基礎研修3回　福岡・北九州・久留米の会場で各100名ずつ
　応用研修1回　福岡会場で500名
⑧九大主催STセミナー講師について（原田）
　国際医療福祉大学　小渕千絵先生に打診
　2020年1月or2月の予定
⑨第43回九州地区難聴言語障害教育研修会について（原田）
　7月29日開催
　九大　菊池先生の講演あり
⑩言語聴覚フェスタ2019について（社会局）
　体験・相談ブースは例年と同じ形で開催
　9：00スタッフ集合
　特別講演…学生にも案内し、人数をある程度確保しておく
⑪新人研修会アンケートについて（学術局）
　参加者92名
　基礎講座を早く終えたいが、開催頻度が少ないとの意見あり
　県内での講師を増やしていきたい（協会に問い合わせる）
⑫秋の講演会進捗状況について（職能局）
　現状、予算内には収まっている
　会場未定
⑬認定言語聴覚士講習会会場について（事務局）
　2020年の認定STの講習会を福岡（麻生リハ）でできないかと協会より打診あり
　失語・嚥下領域の予定
⑭直方ふれあいフェスタについて（事務局）
　藤川・高山STで調整中
⑮学校教育連携担当者連絡協議会報告（松元）
　6月27日　松元ST出席（大分）
　マニュアル「特別支援教育を理解し対応するために」完成
　特別支援学校でのST正式採用はまだ難しい